

医療情報部

1-1 構成員

平成29年3月31日現在

| | |
|--------------------------|---------|
| 教授 | 1人 |
| 病院教授 | 0人 |
| 准教授 | 0人 |
| 病院准教授 | 0人 |
| 講師(うち病院籍) | 0人 (0人) |
| 病院講師 | 0人 |
| 助教(うち病院籍) | 0人 (0人) |
| 診療助教 | 0人 |
| 特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む) | 0人 |
| 医員 | 0人 |
| 研修医 | 0人 |
| 特任研究員 | 0人 |
| 大学院学生(うち他講座から) | 0人 (0人) |
| 研究生 | 1人 |
| 外国人客員研究員 | 0人 |
| 技術職員(教務職員を含む) | 0人 |
| その他(技術補佐員等) | 1人 |
| 合 計 | 3人 |

1-2 教員の異動状況

木村 通男(教授)(H8.10.1.~現職)

2 講座等が行っている研究・開発等

| | |
|---|--|
| 1 | (1)研究・開発等のテーマ名 |
| | 証拠性のある医学研究についての研究 |
| | (2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略 |
| | 本研究は、医学研究に関し、従来より問題となっていた研究記録の証拠性のなさについて、小病院用電子カルテシステムを応用して、その可用性を検証したものである。 この手法は、電子カルテの証拠性を利用する点で画期的であり、安価に上市されている電子カルテが利用できることが明らかになる。 |
| | (3)前年度までの状況 |
| 昨年度はその要求仕様を評価することができた。これは厚生労働省科学研究費報告書(5 医学研究費取得状況(2)-1)にまとめられている。 http://mhlwgrants.niph.go.jp/niph/search/NIDD00.do?resrchNum=201520048A | |
| (4)当該年度内の進捗 | |
| 今年度はこれを実際に利用してもらうことで、問題点を見出すことができた。これは学会発表((2-1)論文形式のプロシーディングズ A-1)にまとめられている。 | |
| (5)翌年度の方針と予想 | |
| 今後は利用をさらに広げることで一般的利用が可能となるか進めていく予定である。 | |

3 論文, 症例報告, 著書等

| | 平成28年度 |
|------------------------|-----------|
| (1)原著論文数(うち和文のもの) | 5編 (0編) |
| そのインパクトファクターの合計 | 13.208 |
| (2)論文形式のプロシーディングズ及びレター | 13編 |
| そのインパクトファクターの合計 | 0.000 |
| (3)総説数(うち和文のもの) | 1編 (1編) |
| そのインパクトファクターの合計 | 0.000 |
| (4)著書数(うち和文のもの) | 0編 (0編) |
| (5)症例報告数(うち和文のもの) | 0編 (0編) |
| そのインパクトファクターの合計 | 0.000 |

(1) 原著論文

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

論文数(A)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

| 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年. | IF |
|--|-------|
| 1. Hori, K., <u>Kimura, M.</u> , Ohe, K, Nakajima, N, Yokoi, H, Tohkin, M, Sai, K, Imatoh, T, Sato, T, Ikeda, S, Saito, Y, Kawakami, J: Review of the Pharmacoepidemiological Studies Using the Medical Information Databases in Japanese Hospitals, PHARMACOEPIDEMIOLOGY AND DRUG SAFETY 25: 315-316 : S3, AUG 2016 | 2.908 |

論文数(B)小計 1 うち和文 0 IF小計 2.908

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

| 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年. | IF |
|---|-------|
| 1. Takuya, I ; Kimie, S ; Katsuhito, H ; Katsunori, S ; <u>Michio, K</u> ; Junichi, K ; Yoshiro, S :Development of a Detection Algorithm for Prednisolone-Induced Diabetes Mellitus Using a Medical Information Database, PHARMACOEPIDEMIOLOGY AND DRUG SAFETY (25): 430-430 : S3, AUG 2016 . | 2.908 |
| 2. Roughead, EE , Chan, EW , Choi, NK, Griffiths, J , Jin, XM , Lee, J, <u>Kimura, M.</u> , Kimura, T, Kubota, K, Lai, ECC , Man, KKC, Nguyen, TA, Ooba, N , Park, BJ , Sato, T, Shin, JY, Wang, T, Wong, ICK, Yang, YHK , Pratt, NL: Proton pump inhibitors and risk of Clostridium difficile infection: a multi-country study using sequence symmetry analysis, Expert Opinion On Drug Safety 15 (12), 1589-1595, DOI: 10.1080/14740338.2016.1238071 DEC 2016 | 2.896 |
| 3. Reinhold Haux1, Casimir A. Kulikowski, Suzanne Bakken, Simon de Lusignan, <u>Michio Kimura</u> , Sabine Koch6, John Mantas, Victor Maojo, Michael Marschollek, Fernando Martin-Sanchez, Anne Moen, Hyeoun-Ae Park, Indra Neil Sarkar, Tze Yun Leong, Alexa T. McCray: Research Strategies for Biomedical and Health Informatics Some Thought-provoking and Critical Proposals to Encourage Scientific Debate on the Nature of Good Research in Medical Informatics: Methods Inf Med 2017;56(Open): e1- e10 https://doi.org/10.3414/ME16-01-0125 | 2.248 |

| | | |
|----|---|-------|
| 4. | Najeeb Al-Shorbaji, Elizabeth M., Borycki, Michio Kimura, Christoph U. Lehmann, Nancy M. Lorenzi, Lincoln A. Moura, Alfred Winter: Discussion of "Representation of People's Decisions in Health Information Systems: A Complementary Approach for Understanding Health Care Systems and Population Health", Methods Inf Med 2017; 56(Open): e20 – e29, https://doi.org/10.3414/ME16-15-0001published: February 1, 2017 | 2.248 |
|----|---|-------|

論文数(C)小計 4 うち和文 0 IF小計 10.300

(2-1)論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

| | 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年. | IF |
|----|---|-------|
| 1. | 木村 通男, 渡辺 浩, 澤 智博, 作佐部 太也, 中島 直樹: 証拠性のある医学研究 Web型小病院向け電子カルテシステムを用いた研究ノートの電子化, 医療情報学連合大会, 医療情報学 第36回医療情報学連合大会論文集 36(Suppl.2), 722-723, 2016. | 0.000 |
| 2. | 木村 通男: 人工知能システムには放射線診断医の何が可能で何が困難か?, 第52回日本医学放射線学会秋季臨床大会抄録集, S532, 2016. | 0.000 |
| 3. | 木村 通男: 外部保存とIHEについて, 第52回日本医学放射線学会秋季臨床大会抄録集, S412, 2016. | 0.000 |
| 4. | 木村 通男: 医療の情報システム化と研究利用の最前線 電子カルテ直結のeCRFの有効性, 臨床薬理 (47)Suppl., S175, 2016.第37回日本臨床薬理学会学術総会シンポジウム25 12月3日, 2016 米子市 | 0.000 |

論文形式のプロシーディングズ数(A)小計 4 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

| | 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年. | IF |
|----|--|-------|
| 1. | 伊藤 泰資, 木村 通男: 臨床研究DBシステムD☆Dを通して見る新規採用薬の副作用, 第22回日本薬剤疫学会学術総会抄録集, 92-93, 2016. | 0.000 |

論文形式のプロシーディングズ数(B)小計 1 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

| | 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年. | IF |
|----|---|-------|
| 1. | 山下彩花, 堀 雄史, 川上 純一, 木村 通男, 平松 達雄, 大江 和彦, 國方 淳, 横井 英人, 近藤 勝弘, 木村 和哲, 頭金 正博: 医療情報データベースを用いた無顆粒球症検出アルゴリズムの汎用性に関する検討, 臨床薬理 (47)Suppl., S249, 2016. | 0.000 |
| 2. | 作佐部 太也, 大内 雄矢, 澤 智博, 渡辺 浩, 中島 直樹, 木村 通男: 証拠性のある医学研究 次世代シーケンサーからのデータの証拠性確保における暗号技術の利用についての評価と提案, 医療情報学連合大会, 医療情報学 第36回医療情報学連合大会論文集 36(Suppl.2), 720-721, 2016. | 0.000 |
| 3. | 澤 智博, 渡辺 浩, 作佐部 太也, 中島 直樹, 木村 通男: 証拠性のある医学研究 一次世代シーケンサー等のデータソースおよび解析ソフトウェアの検討医療情報学連合大会, 医療情報学 第36回医療情報学連合大会論文集 36(Suppl.2), 718-719, 2016. | 0.000 |
| 4. | 中島 直樹, 渡辺 浩, 澤 智博, 作佐部 太也, 宇山 佳明, 山口 光峰, 木村 通男: 証拠性のある医学研究 病院情報システムからのEDCデータ源に関する検討, 医療情報学 第36回医療情報学連合大会論文集 36(Suppl.2), 714-717, 2016. | 0.000 |
| 5. | 奥田 保男, 野津 勤, 坂本 博, 木村 通男: 医用画像情報の適切な保存と共有について考察する, 医療情報学 第36回医療情報学連合大会論文集 36(Suppl.1), 226-227, 2016. | 0.000 |
| 6. | 奥田 保男, 木村 通男, 川真田 実: 画像情報のオンライン連携 必要となる診療報酬要件と事例紹介, 医療情報学 第36回医療情報学連合大会論文集 36(Suppl.1), 72-74, 2016. | 0.000 |
| 7. | 小出 大介, 木村 通男, 山口 光峰, 久保田 潔: 医療の情報システム化と研究利用の最前線, 医療情報学 第36回医療情報学連合大会論文集 36(Suppl.1)68-70, 2016. | 0.000 |
| 8. | 田代 大将, 堀 雄史, 川上 純一, 木村 通男, 佐藤 嗣道: 病院情報データベースを用いたコホート研究の実施可能性 抗リウマチ薬使用患者における検討, 第22回日本薬剤疫学会学術総会抄録集 148-149, 2016. | 0.000 |

論文形式のプロシーディングズ数(C)小計 8 IF小計 0.000

(2-2)レター

レター数小計 0 IF小計 0.000

(3)総説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

| | 筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年. | IF |
|----|--|-------|
| 1. | 木村 通男: Win-Winの関係を築く情報共有 検査・画像情報提供加算と電子的診療情報評価料算定のノウハウ Outline 情報共有の強化に向けて 検査・画像情報提供加算の算定要件とIHE netPDIによる標準的で安価な実装, INNERVISION (32):2付録, 38-43, 2017.01 | 0.000 |

総説数(A)小計 1 うち和文 1 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

総説数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

総説数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

| | 平成28年度 |
|---------------|--------|
| 特許等取得数(出願中含む) | 0 件 |

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

| | 平成28年度 |
|-------------------|--------|
| 実用化、認証、承認、製品化、販売数 | 0 件 |

5 医学研究費取得状況

| | 平成28年度 | |
|------------------------------|--------|------------------|
| | 件数 | 金額 (万円未満四捨五入) |
| (1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会) | 0 件 | 0 万円 |
| (2) 厚生労働科学研究費 | 1 件 | 539 万円 |
| (3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成 | 2 件 | 1,552 万円 |
| (4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成 | 0 件 | 0 万円 |
| (5) 他政府機関による研究助成 | 1 件 | 1,090 万円 |
| (6) 財団助成金 | 0 件 | 0 万円 |
| (7) 受託研究または共同研究 | 1 件 | 300 万円 |
| (8) 奨学寄附金 | 1 件 | 270 万円 |

(2) 厚生労働科学研究費

| | |
|--|-------|
| 1. 木村通男: 地域医療基盤開発推進研究事業 電子カルテ情報を用いた証拠性のある臨床研究手法に関する研究(H27-医療-指定-016) 平成27年度~平成28年度 研究代表者 | 539万円 |
|--|-------|

(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成

| | |
|---|--------|
| 1. 木村通男: 臨床研究・治験推進研究事業 臨床研究施設の負担を小さくした、臨床研究の副作用等の報告手法に関する研究 (16lk0201050h0001) 平成28年度 研究代表者 | 1460万円 |
| 2. 木村通男: 医薬品等規制調和・評価研究事業 医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースの利活用方法に関する薬剤疫学研究 平成26年度~平成28年度 分担者 (代表者: 川上純一(浜松医科大学)) | 92万円 |

(5) 他政府機関による研究助成

| | |
|--|--------|
| 1. 木村通男: 独立行政法人医薬品医療機器総合機構, 医療情報データベースに保存された医療情報の実践的な利活用のためのデータ検証(バリデーション), 平成28年度 代表者 | 1090万円 |
|--|--------|

(7) 受託研究または共同研究

| | |
|---------------------------------------|-------|
| 1. 共同研究: 標準化規格準拠の電子的医療情報データの利活用に関する研究 | 300万円 |
|---------------------------------------|-------|

6 大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

| | (1) 国際学会 | (2) 国内学会 |
|----------------|----------|----------|
| 1) 基調講演・招待講演回数 | 5 件 | 1 件 |
| 2) シンポジウム発表数 | 1 件 | 4 件 |
| 3) 学会座長回数 | 1 件 | 3 件 |
| 4) 学会開催回数 | 0 件 | 0 件 |
| 5) 学会役員等回数 | 3 件 | 6 件 |
| 6) 一般演題発表数 | 0 件 | |

(1) 国際学会等開催・参加

1) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

1. Kimura M.: Japan's Nationwide Drug Adverse Event Detection Project, Asia Healthcare Summit 2016, Singapore, May 25, 2016.
2. Kimura M.: Standardization, Communication & Stakeholder Engagement for Successful EHR Implementation in Hospitals [Panel Discussion], Asia Healthcare Summit 2016, Singapore, May 26, 2016.
3. Kimura M.: Japan's Available Large Clinical Databases - Reimbursement claim data, Specialist qualification registry, and HL7 based standardized, Joint Conference on Medical Informatics in Taiwan 2016, Taiwan, June 11, 2016.
4. Kimura M.: National project of drug safety on big data of EHR of 10 hospitals, 2016 International Conference on Healthcare and Management, Taiwan, June 27, 2016.
5. Kimura M.: Secure submission of clinical research registration and adverse event in Japan - Adverse event report direct from HER, Asia Pacific Electronic Health Records Conference 2016, HongKong, July 7, 2016.

2) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Kimura M.: Japan's Nationwide Drug Adverse Event Detection Project based on HL7 Standardized Storage, HEC2016, Munich, Germany, August 31, 2016.

3) 国際学会・会議等での座長

1. Kimura M.: APAMI2016, Seoul Korea, November 3, 2016

5) 役職についている国際学会名とその役割

1. Kimura M.: Fellow, American Medical Informatics Association American College of Medical Informatics
2. Kimura M.: Vice President, International Association for Medical Informatics
3. Kimura M.: Fellowship, Health Level Seven International

(2) 国内学会の開催・参加

1) 学会における特別講演・招待講演

1. 木村通男: 「医療の質: 診断」外部保存とIHEについて, 第52回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 9月16日, 2016. 東京都 (教育講演)

2) シンポジウム発表

1. 木村通男: 検査・画像情報提供加算の必要要件と標準的な手法, 第44回日本放射線技術学会秋季学術大会, 標準化フォーラム, 10月13日, 2016. さいたま市
2. 木村通男: 安全性情報の共有, 第36回医療情報学連合大会 (第17回日本医療情報学会学術大会) 共同企画10「医療の情報システム化と研究利用の最前線」, 11月24日, 2016. 横浜市
3. 木村通男: 画像情報をオンラインで連携するための要件と手法, 第36回医療情報学連合大会 (第17回日本医療情報学会学術大会) 共同企画11「画像情報のオンライン連携」, 11月24日, 2016. 横浜市
4. 木村通男: 電子カルテ直結のeCRFの有効性, 第37回日本臨床薬理学会学術総会シンポジウム25「医療の情報システム化と研究利用の最前線」, 12月3日, 2016. 米子市

3) 座長をした学会名

1. 木村通男: 第36回医療情報学連合大会 (第17回日本医療情報学会学術大会) 11月21日~11月24日, 2016. 横浜市
2. 木村通男: 第37回日本臨床薬理学会学術総会, 12月3日, 2016. 米子市
3. 木村通男: 第3回日本医療学会「医用知能情報学研究会」人工知能学会「医用人工知能研究会」(SIG-AIMED) 合同研究会, 3月9日, 2017. 三浦市

5) 役職についている国内学会名とその役割

1. 木村通男 日本医療情報学会 理事
2. 木村通男 日本医療情報学会中部支部会 会長
3. 木村通男 日本医学放射線学会 電子情報委員会委員
4. 木村通男 日本放射線技術学会 学術委員会医療被ばく関連情報小委員会委員
5. 木村通男 日本IHE協会 副理事長、運営委員会委員、国際委員会委員長
6. 木村通男 日本HL7協会 会長

8 学術雑誌の編集への貢献

| | (1) 外国 | (2) 国内 |
|-------------------|--------|--------|
| 学術雑誌編集数(レフリー数は除く) | 5 件 | 0 件 |

(1) 外国の学術雑誌の編集

1. Kimura M.: Journal of American Medical Informatics Association, BMJ Publishing Group, England, Editorial Board, PubMed/MEDLINE登録あり, インパクトファクター: 3.43

| | |
|----|---|
| 2. | Kimura M: Methods of Information in Medicine, Schattauer, Germany, Editorial Board, PubMed/MEDLIN 登録あり, インパクトファクター: 1.78 |
| 3. | Kimura M: International Journal of medical Informatics, Elsevier, Ireland, Editorial Board, PubMed/MEDLINE 登録あり, インパクトファクター: 2.36 |
| 4. | Kimura M: Journal of Biomedical Informatics, Academic Press Inc. Elsevier Science, USA, Editorial Board, PubMed/MEDLINE登録あり, インパクトファクター:2.45 |
| 5. | Kimura M: Healthcare Informatics Research, The Korean Society of Medical Informatics, Korea, Editorial Board, PubMed/MEDLINE登録あり |

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

| | |
|----|---|
| 1. | Kimura M.:1回: Methods of Information in Medicine(ドイツ) |
| 2. | Kimura M.:3回: International Journal of Medical Informatics(アイルランド) |
| 3. | Kimura M.:5回:Journal of American Medical Informatics Association(アメリカ合衆国) |
| 4. | Kimura M.:2回:Computer Methods and Programs in Biomedicine(アイルランド) |

9 共同研究の実施状況

| | 平成28年度 |
|------------|--------|
| (1) 国際共同研究 | 0 件 |
| (2) 国内共同研究 | 0 件 |
| (3) 学内共同研究 | 0 件 |

10 産学共同研究

| | 平成28年度 |
|--------|--------|
| 産学共同研究 | 2 件 |

| | |
|----|-------|
| 1. | 企業 2件 |
|----|-------|

11 受賞

12 新聞, 雑誌, インターネット等による報道

| | |
|----|---|
| 1. | 「安全、簡単、安価」、ネットで画像情報提供 浜松医大・木村氏ら開発、診療報酬の加算可能, m3.com ニュース 医療維新 レポート 2017年3月7日(火)配信橋本佳子(m3.com編集長) |
|----|---|

13 その他の業績

| | |
|----|--|
| 1. | 静岡県版電子カルテシステム事業を経て、厚生労働省電子的診療情報交換推進事業(SS-MIX)成果物として採用された、 SS-MIX標準化ストレージの発展・貢献:SS-MIX標準化ストレージ稼働医療機関 996施設(2016年3月 現在) |
| 2. | 厚生労働省医薬・生活衛生局安全対策課・独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)医療情報データベース基盤整 備事業への参画と指導 |
| 3. | 電子カルテ上にスタンプ機能の開発: 臨床項目、あるいはケースカードの項目のうち検査結果などを電子カルテから自動でインポートし、必要な項目は、入力、埋 まったスタンプは、電子カルテの内容として保存、スタンプ内容は、EXCELファイルとして出力するシステムを開発した。ダビン チ登録、臨床研究などでの利用開始。 |